公正なるべき警察官よ。何處へ往く？

されど、一切の諸惡勢力の友動的、時代錯誤的策動及運動も大衆の政治的自覺と無產階級意識の前には、恰も烈日下の露滴の如く、無駄であり徒勞であつた。

正義の旗翻へる處、凱歌揚る。

		第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區	計
民政	得票數	六三六	一、九六三	一、〇九二	一、七一六	一、二六三	三五四	七、〇二三
	立候補數	一	四	二	四	三	一	一五
	當選者數	一	四	二	四	三	一	一五
政友	得票數	八六一	一、八八二	四一六	一、八四〇	一、七〇八	四四九	七、一五六
	立候補數	二	四	一	四	三	一	一五
	當選者數	一	三	一	二	二	一	一〇
社民	得票數	一、一七六	七一一	二〇三	一九七	一、一二八	三七五	四、七九〇
	立候補數	二	二	一	三	二	一	一一
	當選者數	二	一		三	二	一	九
民憲	得票數	八二四	一、五七四	四〇六	一、二七八	九九五	一六四	五、二四一
	立候補數	一	四	一	三	二	一	一一
	當選者數	一	四	一	三	二	一	一一
中立	得票數	一九三	二九八	一八	二七六	五四五	一、三三〇	
	立候補數	一	四	一	三	三	一二	
	當選者數							

各派當選率

民政	八〇%
政友	六七%
社民	八二%
民憲	四五%
中立	零

總改選以前に於て無產派議員は僅かに民憲の一名であつたものが、今や八幡の市政分野は、民政一二、政友一〇（現在九）、社民九、民憲五、の既成政黨二二對無產黨一四のハツキリした階級的對峙狀態を現出するに到つた。

若し、官憲の無產派に對するあのクー・デター的取締りに依る既成政黨への間接的庇護なかりせば、此の分野は、必ずや無產派の過半數に書替へられねばならなかつただらう。

公新會が、民憲黨と雖も、市會の選擧に對しては海千山千の經驗を有つに反し、吾黨は選擧區其のものに就いても昭和三年の衆議戰とともに僅か二回の經驗であり、市議戰に就いては全くの初陣であつた。從つて、吾黨の選擧タクテイークは言論戰一點張りに終始し。法律の禁ずる特殊の潛航運動は斷然之れを排したのであるが、而も其の唯一つの戰鬪武器たる言論も、度々叙べ來つた理由に依り、その十分の一の效力も發揮することが出來なかつたことを考慮するならば、吾憲候補者の當選率八二%は驚異的大成功であつたと言へやう。茲に哀れを止めたのは、民憲黨の慘敗である。

彼等は戰前に於て豪語して曰く、『民憲黨は過去に於て三度戰ひ三度勝つた。今度は四度目である。今度勝つ者は永久に勝つ。先づ今度の當選者は、社民三、四名、民憲七名乃至十名位だらう』と。

(一)彼等は吾黨と違ひ、古く約十年以前か